



『天日槍命（あめのひぼこのみこと）』

播磨の国では地主神（※）と数ヶ所で国占めの争いをしました。最後は友好的にか？決着がつかなかったのか？黒い葛（つづら）を投げて、その落ちた所に住むことになり、天日槍命は但馬（たじま）の国、出石（いずし）に去りました。

天日槍命の定住した但馬では、地域開発の神として出石神社に祀られています。この神社は但馬一宮で、今でも大勢の方々の信仰を集めています。この神社には今もなお禁足地があり、発掘出来るのであれば、何が現れるか興味津々です。

ところで天日槍命とはどんな人だったのでしょう。独断と偏見では、一人の人物ではなく、韓国から何回かに分けて渡来した技術集団達です。彼等は『日矛（ひぼこ）』を祀る共通の信仰を持っていた人達だったのです。（※）そして、航海技術と高温技術を持っていました。木炭を作り陶器を焼き、鉄を作り道具を造る技術です。出石に残る古墳や遺跡からそれらを探ってみたいと思います。

入佐山（いりさやま）三号墳

出石城下を一望出来る小高い山に3基の古墳が点在しています。三号墳第一主体は4世紀後半に作られた組み合わせ式木棺と思われます。その大きさは4.8 m x 0.8 m x 0.3 mで全面に赤色顔料（ベンガラか？）が塗られています。副葬品には鉄製品が多く含まれ、鉄鍬（てつぞく＝やじり）・ヤリガンナ・直刀・鉄剣・槍などです。特筆すべきは頭部の近くに『砂鉄』が副葬されていたことです。この砂鉄を使って国内で製鉄したとすると、製鉄の歴史を変える大発見です。

袴狭（はかざ）遺跡

但馬地方の中央を日本海に向かって北に流れる円山川の支流の出石川のさらに支流、袴狭川の流域にあります。遺跡から日本海へは直線距離にして約18kmあります。袴狭遺跡のある谷は、豊岡盆地東部にある比較的大きな谷で、西側以外の三方を、標高150 m前後の山によって囲まれています。平野部の広さは南北約620m、東西約170mで、東から西へ緩やかに傾斜しています。この平野部の南側の山裾を流れる袴狭川沿いの標高約5～10mの低湿地に、袴狭遺跡は広がっています。

この遺跡には天日槍命を埋葬したとの伝承があり、弥生時代から古墳時代の遺跡があります。1994年、16艘の準構造船が描かれた2 m弱のスギ板が出土し、話題を呼びました。彼等はこんな船に乗って渡来したのでしょうか？又、奈良～平安時代を中心とする時期の木製品、木製祭祀具が多数出土、『秦』の字の書かれた土器も発見され、但馬国府や出石郡衙との関連が考えられています。

線刻図 復元



天日槍命（あめのひぼこ）は文書によって使われる漢字が異なっています。

風土記 日本書紀 : 天日槍命

古事記 : 天之日矛

古語拾遺 : 海槍槍

※地主神――芦原志挙乎命：あしはらのしこお＝大国主命の別名？&伊和大神

※日矛――矛ではなく日矛鏡という名の鏡との説もありますが、未調査のため確認できません。

参考資料

天日槍（渡来の神） 環日本海歴史文化シンポジウム 出石印刷 1995年

播磨国風土記 上田正昭 監修 神戸新聞総合出版センター 1996年

兵庫県埋蔵文化財センター ホームページ（線刻図借用）

むらの鍛冶屋®



何でもお気軽にお尋ねください！！

ホームページと電子メールをご利用ください。

URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>

<http://www.kanamonoya.co.jp/>

ryou@memenet.or.jp